

柳ヶ瀬日常利用促進プロジェクト

～日常のつながりが生まれるまちへ～

基盤整備政策課

河村 天斗

住宅・空き家対策課

矢野 華帆

子ども政策課

山田 涼佳

十六銀行

杉本 海崎

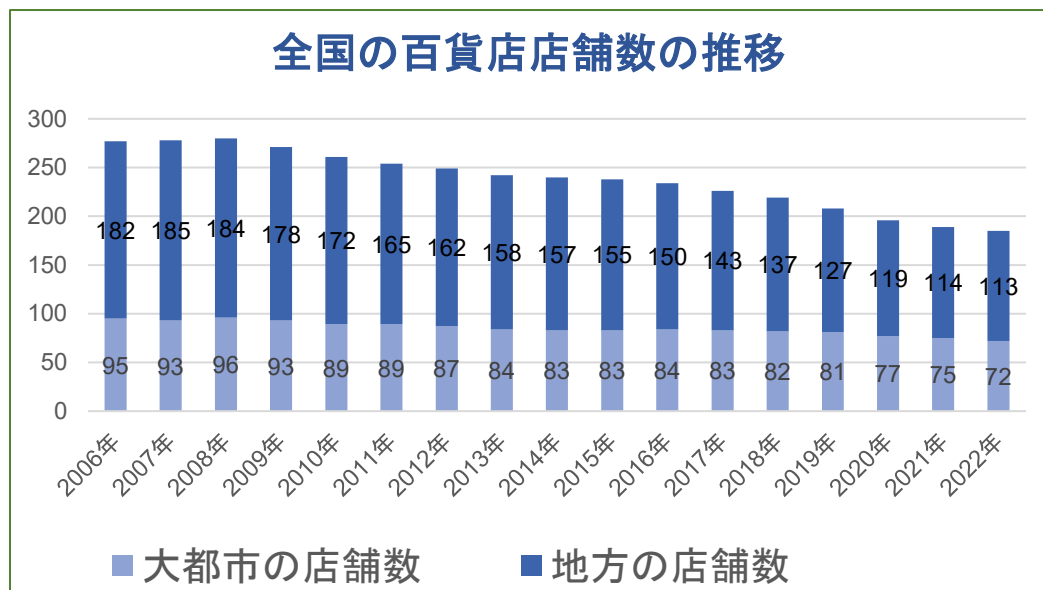
岐阜大学

横田 堅誠



1 社会的背景(全国)

中心市街地を取り巻く環境の変化



日本百貨店協会リリースより作成

全国の百貨店店舗数

⇒「減少傾向」
(特に地方で顕著)

国土交通省中心市街地活性化の基本的な方針(平成30年4月改訂)

「商業機能に加え、居住・公共サービス・交流などの多様な都市機能が集積し、人々が近接して相互に交流する、魅力とにぎわいのある中心市街地を形成する。」

従来の「買い物」を中心とした中心市街地から、居住・生活サービス・交流など多様な目的で利用される中心市街地へ
中心市街地は「買い物の場」から「暮らしの場」への転換が求められている

2 柳ヶ瀬エリアの現状

“柳ヶ瀬”の変遷

【岐阜高島屋】
令和6年7月に閉店



一方、新たな取組の進展・施設開業も

平成26年～
サンデービルディングマーケット



令和5年3月 金公園リニューアル
柳ヶ瀬グラスル35開業



令和 5年4月～ ツナグテ



柳ヶ瀬エリアを訪れる人の動きは、どのように変化しているのか？

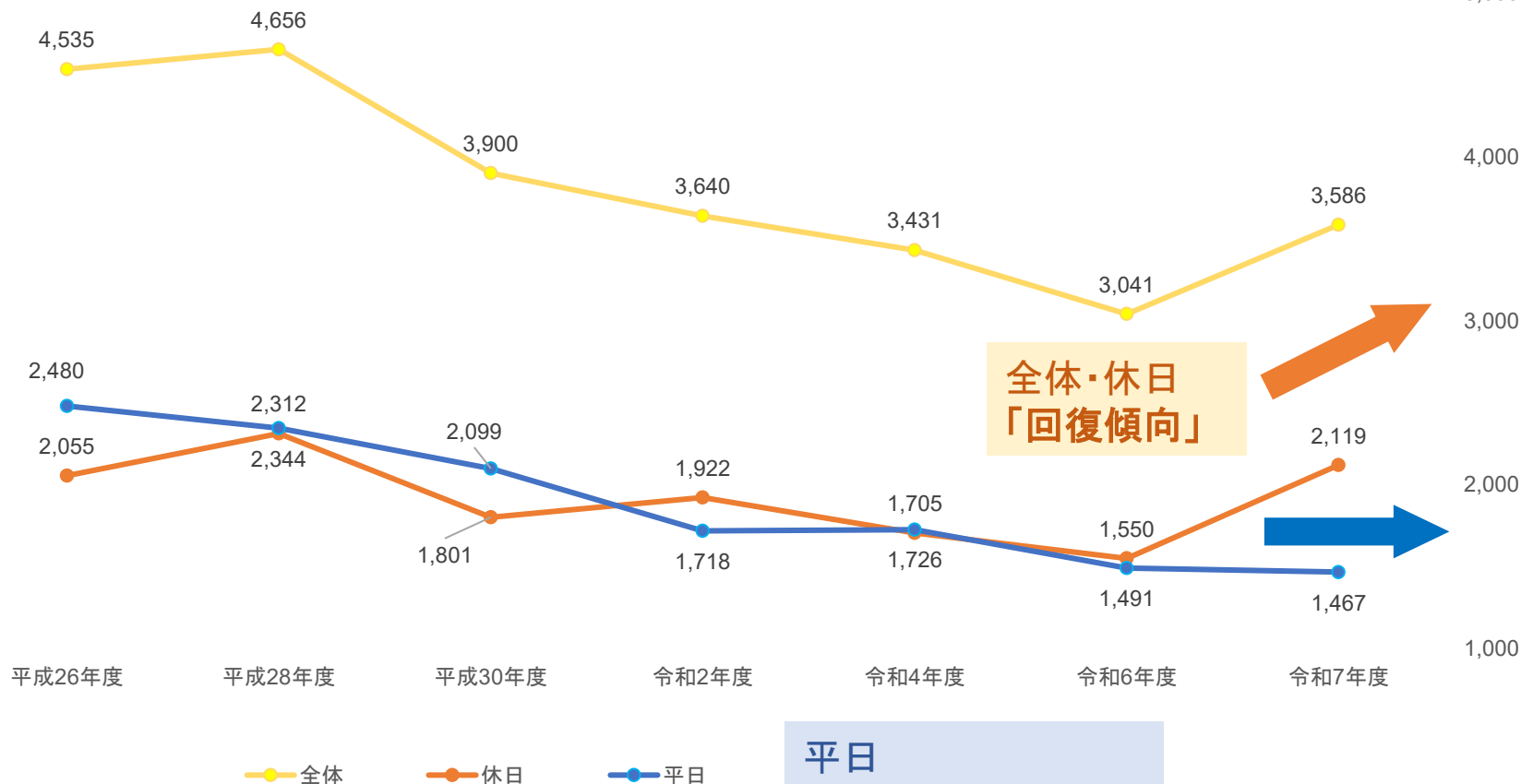
2 柳ヶ瀬エリアの現状

交通量の変化から見えること

柳ヶ瀬エリアの歩行者・自転車通行量

※エリア内2日間平均

(人)
5,000



岐阜市：歩行者・自転車通行量調査より作成

3 休日・平日利用にギャップがある要因考察

休日 「大幅に回復傾向」

・サンデービルディングマーケットやツナグテによって、県外からも来街がある。

⇒休日には訪れる目的・機会が生まれている



平日 「減少・横ばい傾向」

・商業施設の閉店が重なり、買い物を目的とした来街の機会が減少

⇒日常的・継続的な利用をどう生み出すかが今後の課題

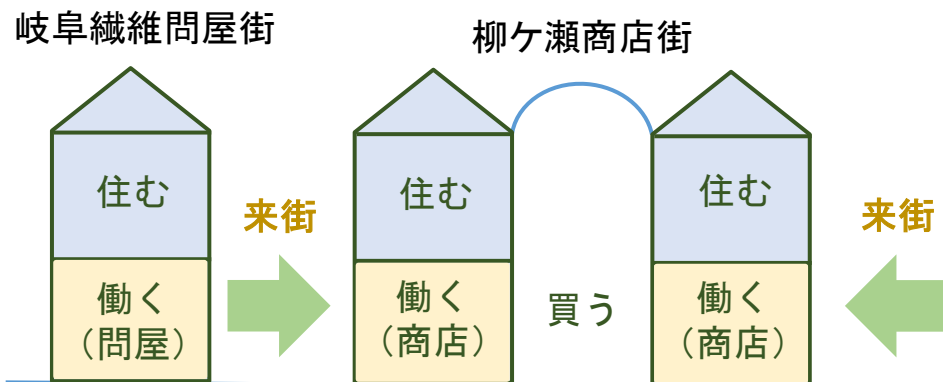
4 “柳ヶ瀬の日常”を歴史的背景から探る

戦後～昭和後期



「働く・住む・買う」が
重なる日常

柳ヶ瀬で働き住む人々、来街者、繊維問屋街で働き、
買い付けに来る人々も行き交い、
日常的な人の流れが生まれていた。



出典：国土地理院撮影の空中写真（シームレス）を加工して作成

4 “柳ヶ瀬の日常”を歴史的背景から探る

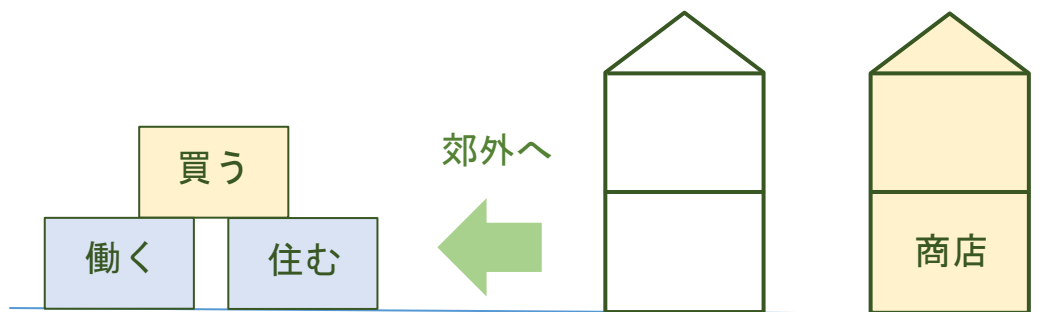
平成初期



「働く・住む・買う」の
つながりが薄れる

繊維産業の衰退や郊外化などにより、
働く人・住む人・買い物する人の流れが
変化し、柳ヶ瀬を日常的に利用する人が減少。

中心市街地機能の
空洞化



出典：国土地理院撮影の空中写真（シームレス）を加工して作成

4 “柳ヶ瀬の日常”を歴史的背景から探る

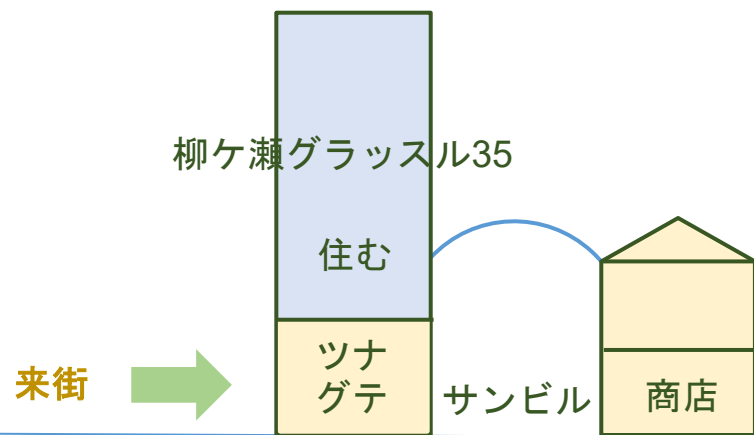
令和



「過ごす・住む・買う」で
「新たな日常」へ

令和6年岐阜高島屋閉店を一つの転換点に、
商業だけに依存しない新たな日常へ。

柳ヶ瀬グラスル35の開業などまちなか居住が推進。
新規出店舗数は150件以上（H26～R3）



出典：国土地理院撮影の空中写真（シームレス）を加工して作成

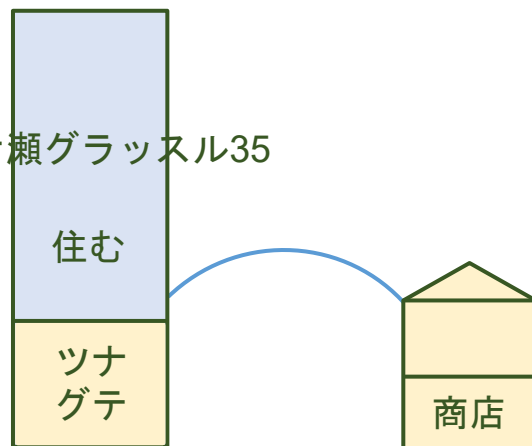
5 “柳ヶ瀬の日常” 現状

現状

それぞれの日常が息づく“柳ヶ瀬”

「住」 住む
まちなか居住推進

柳ヶ瀬グラスル35



「商」商店
新規出店が増加

「来街」 サンビル・ツナグテ等により柳ヶ瀬に訪れる人が増加

6 “柳ヶ瀬の日常” 理想状態

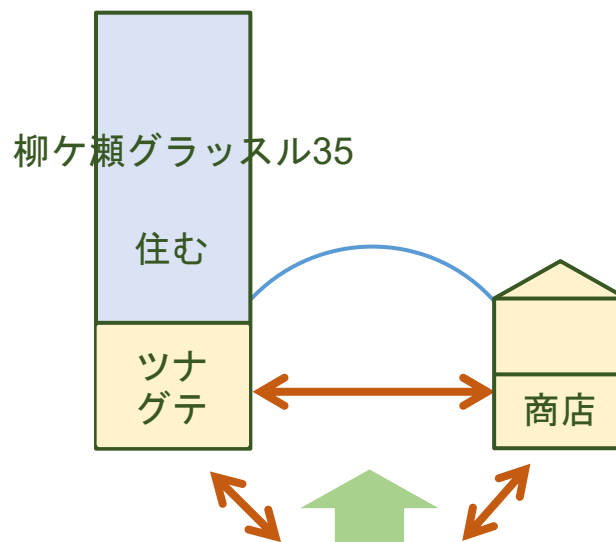
理想状態

日常の交差点“柳ヶ瀬”

発展してきた「商」「住」「来街」が
まちでつながる

「住」住む
まちなか居住推進

柳ヶ瀬グラスル35



「商」商店
新規出店が増加

「来街」サンビル・ツナグテ等により柳ヶ瀬に訪れる人が増加

7「日常の交差点“柳ヶ瀬”」に向けた課題

現状の取り組み(中心市街地における行政支援)

【商】

・空き店舗活用事業補助金

⇒まちなか出店促進

【住】

・柳ヶ瀬グラスル35
・新築住宅取得助成補助金

⇒まちなか居住促進

【来街】

・ツナグテ・ウゴクテの開業

⇒まちなか滞在・交流促進

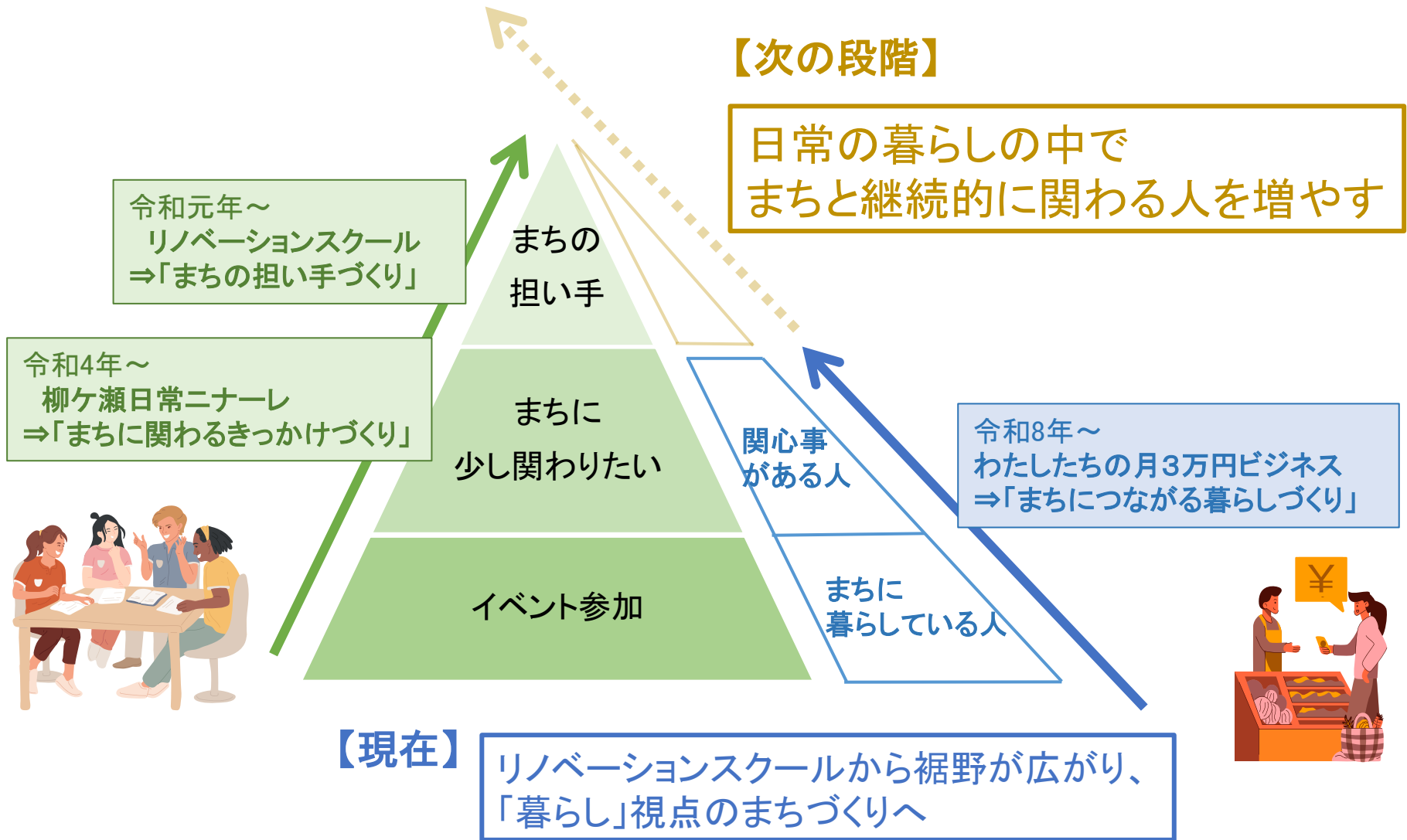
金公園・柳ヶ瀬広場の整備

それぞれの分野で中心市街地の取り組みは進展



「日常の交差点“柳ヶ瀬”」へ

8「日常の交差点“柳ヶ瀬”」に向けたまちづくり



9 次の段階を担う存在への着目

柳ヶ瀬に必要な「次の段階」

①つなぐ存在



②まちと継続的に関わる人

日常の中でまちと
関係を築く



「学生」に着目

地域のメリット

- ・若い世代との交流
- ・人・活動をつなぐ新たな担い手
- ・新しい視点、アイデア

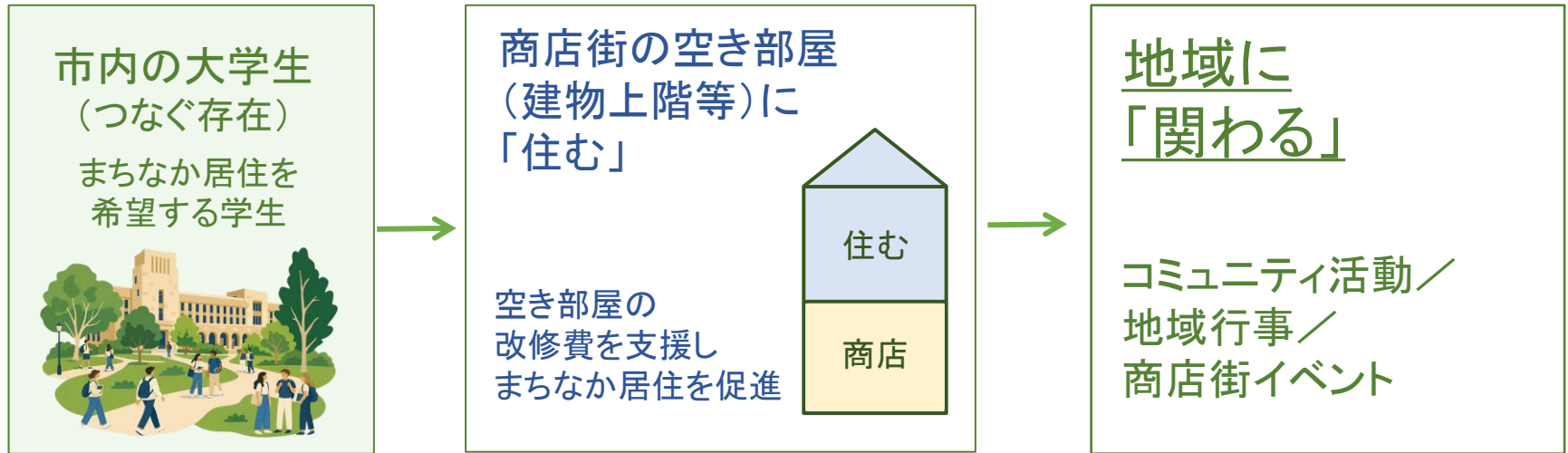
学生のメリット

- ・多様な人とのつながり
- ・地域での実践経験
- ・地域への愛着、居場所

まちの課題解決 × 学生の成長

10 提案施策(事業内容)

まちなかコネクト ー学生が暮らし、商店街とつながるー



「日常的な交流」



10 提案施策(対象とする学生)

まちなかコネク トー学生が暮らし、商店街とつながるー

大学とまちをつなぎ、学生の生活圏を広げる



出典：国土地理院撮影の空中写真（シームレス）を加工して作成

【対象】

- ・市内の大学に通う、一人暮らしを希望する学生
- ・まちなかでの暮らしや、まちとの交流に関心がある学生

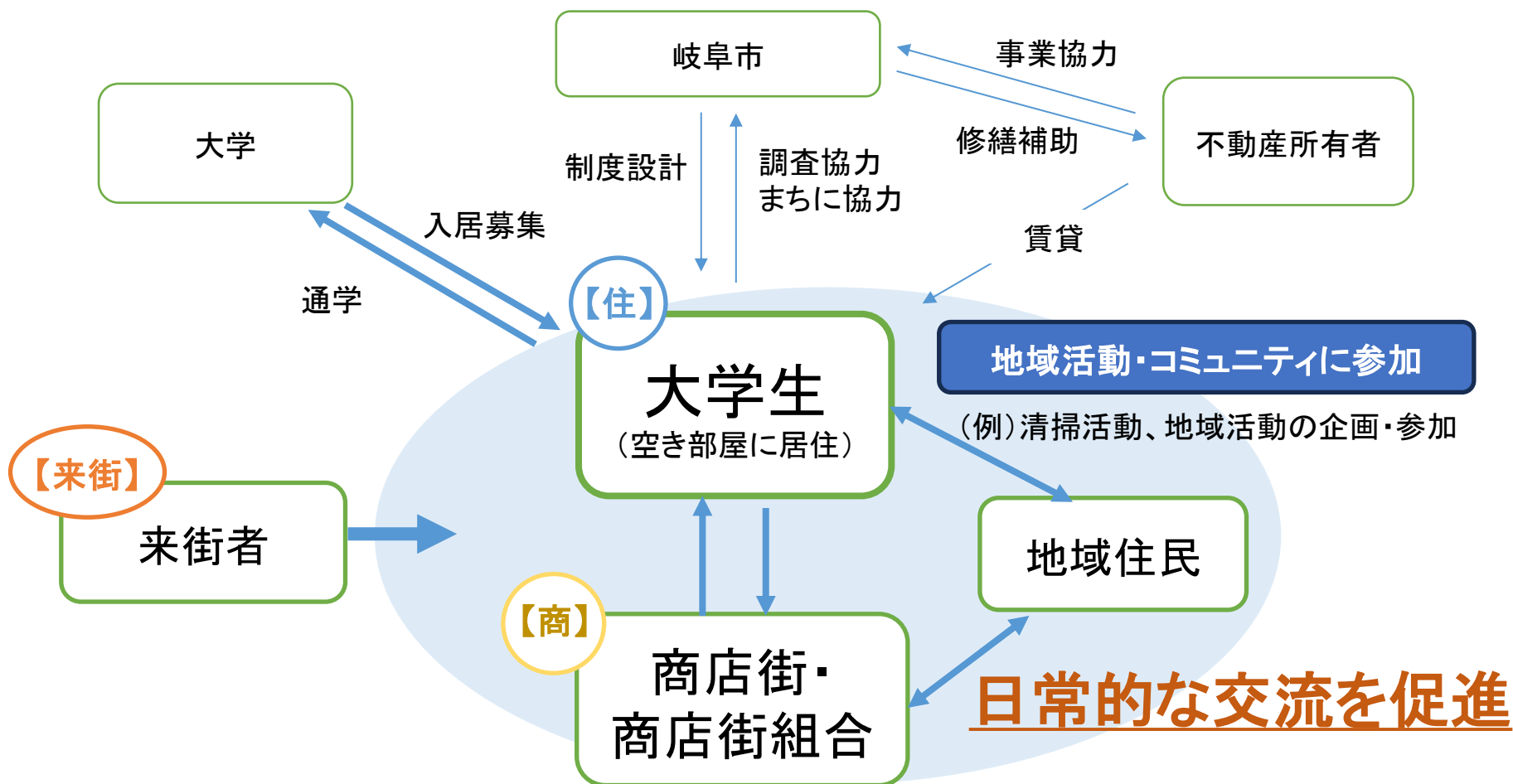
まちなかで活動することで、
まちとの日常的な接点が生まれる

まちへの理解・愛着の醸成

「大学に通うまち」から、
「暮らし、関わるまち」へ

10 提案施策(事業スキーム)

まちなかコネクト ー学生が暮らし、商店街とつながるー



11 施策実施計画・財源（3カ年計画）

	アクション計画	予算・備考
R9年度（初年度）	・ 物件調査、所有者への交渉 ・ 学生居住補助金（仮）の要綱作成 ・ 物件の修繕提案（所有者） → <u>物件の確保（2件）</u>	・ 調査：職員対応 ・ 物件の状態によって適宜修繕を行う補助金の検討 例）1/2補助 100万円限度
R10年度（2年目）	・ 物件の修繕（所有者） ・ 大学への渉外活動 →入居者に対する案内や制度設計について検討をすすめる ・ <u>入居者募集（目標2人）</u>	・ 補助金 100万円×2件＝<u>200万円</u>
R11年度（3年目）	・ <u>追加学生入居募集（目標2人）</u> ・ 商店街と協力して、 <u>学生とともに地域活動</u>を行う。 ・ 学生による地域活動・大学との連携 ・ <u>成果検証</u>	・ 補助金（必要性に応じ） 100万円×2件＝<u>200万円</u>

12 予測される施策の効果：KPI評価の考察

まちなかコネクト

	件数
入居者数	3ヵ年目標：2人
地域活動参加率	70%以上の参加率を目標 (柳ヶ瀬で開催されるイベントへの入居学生の参加率)

施策全体

柳ヶ瀬エリア内 歩行者・自転車交通量	全体：4,000人 休日：2,300人 平日：1,700人※エリア内2日間平均
市民意識調査	【設問】 岐阜駅周辺や柳ヶ瀬などの中心市街地のにぎわいが 高まっているまちだと思いますか。 目標値：「思う」または「どちらかといえば思う」割合 <u>20%</u> R8：10.9% R7：15.3% R6：13.0%

13 今後の展開

学生を起点とした「**日常的な交流**」を柳ヶ瀬全体へ

① 実証・検証

学生を対象に「まちなか居住」を実践
KPI・アンケートで効果検証



② 対象・エリアの拡大

効果が確認された取組を若手社会人・子育て世帯等へ
より、空き物件・公共空間にも展開



③ 地域主体の仕組みへ

行政主導から学生・住民・商店等が自ら企画・運営する仕組みへ
『日常のつながりを定着』

「商」「住」「来街」がつながる**日常の交差点“柳ヶ瀬”**へ

小さな実践を重ね、柳ヶ瀬に“**日常的な交流**”を定着させる